

地域住民福祉活動 情報交換会報告

葛飾区社会福祉協議会では、身近な地域で支えあうしくみを築き、そこに暮らす住民が主体となり様々な課題の発見・解決を図る取り組みである小地域福祉活動を19の連合町会を基礎エリアとして、現在、13地区の自治町会連合会と民生児童委員協議会のご協力のもと活動を展開しています。

今回は、豊島区における「みみずくサロン活動」への取り組みと、奥戸地区の各サロン活動の取り組みについて、実践報告をしていただき意見・情報交換をしながら、サロン活動の意義や魅力を再認識し、更なる小地域福祉活動の推進と、よりよい地域づくりにつながる学習会を開催しました。

なお、自治町会や民生児童委員、サロン実施団体、高齢者総合相談センターなどから、102名の方々にご参加いただきました。

1. 日時 平成27年2月5日(木) 午後2時～4時30分

2. 場所 ウェルピアかつしか 1階 ボランティア活動室

3. 内容

(1) 実践報告① 『豊島区民生児童委員協議会における“みみずくサロン”活動について』

発表者：寺田 晃弘 さん (豊島区民生児童委員協議会 会長)

(2) 実践報告② 『長崎第一地区における“みみずくサロン”活動について』

発表者：山本 ナミエ さん (長崎第一地区民生児童委員協議会)

(3) 実践報告③ 『奥戸地区における地域サロン活動 “笑顔で会いましょう”の活動について』

発表者：田島 恵美子 さん (奥戸地区民生児童委員協議会)

(4) 実践報告④ 『奥戸地区における地域サロン活動 “ゆずの会”の活動について』

発表者：滝田 節子 さん (奥戸地区民生児童委員協議会)

(5) 情報交換会

コーディネーター：菅野 道生 先生

(岩手県立大学 社会福祉学部 専任講師)

も く じ

当日の様子・・・・・・・・・・・・・・・・	1
地域住民福祉活動情報交換会参加者アンケート結果・・・	3
参加者からの質問及び回答・・・・・・・・・・・・・・・・	12

当日の様子



実践報告：寺田さん



実践報告：山本さん



実践報告：田島さん



実践報告：滝田さん



コーディネーター：菅野先生

当日の様子



全体の様子



高校生、大学生も参加



実践報告の様子



グループワーク①



グループワーク②

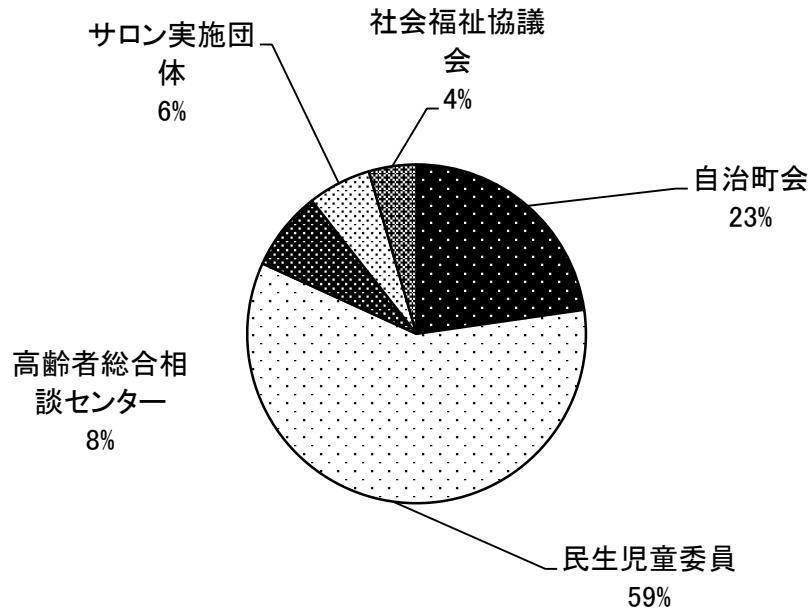


質疑

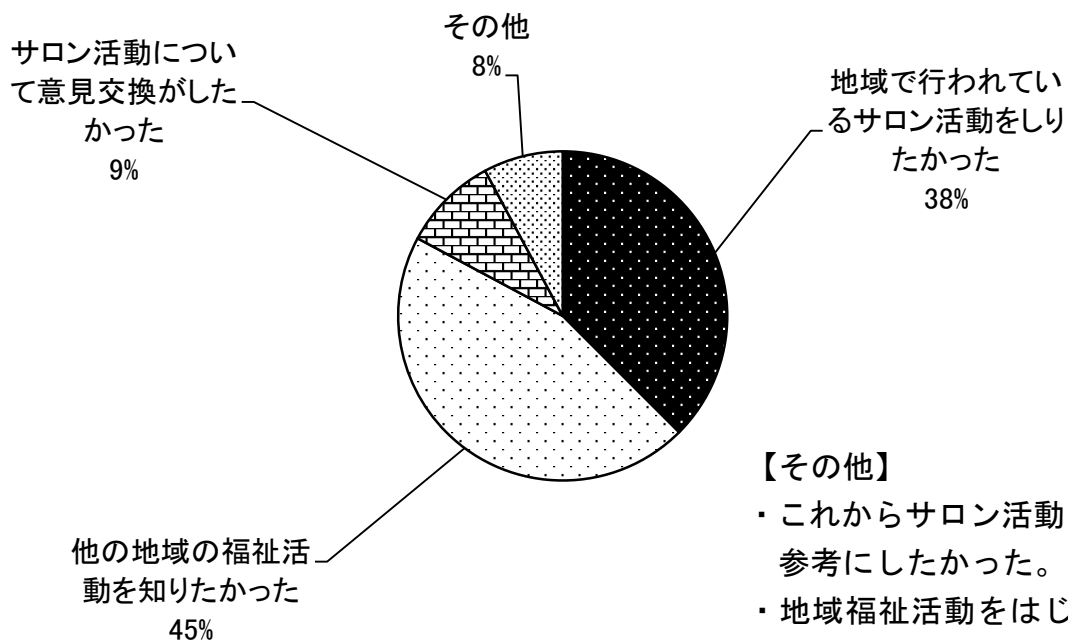
地域住民福祉活動情報交換会 参加者アンケート結果

◎ 所 属

参加者：102名



1. この情報交換会に参加された理由をお聞かせください？

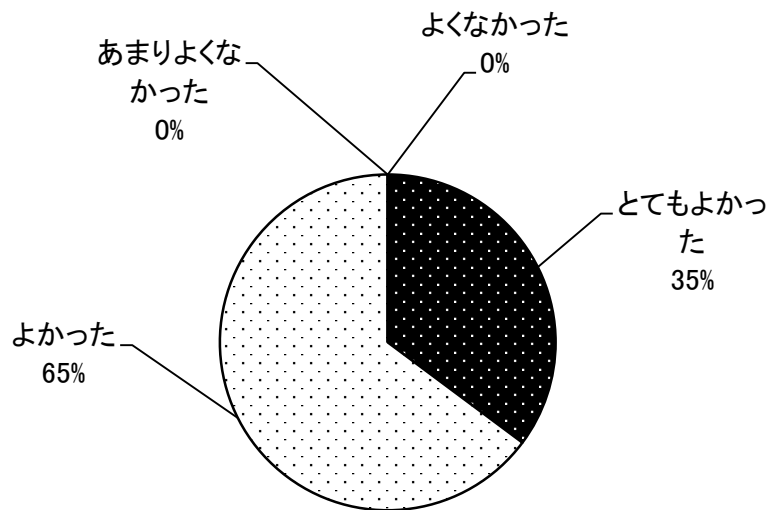


【その他】

- ・これからサロン活動を立ち上げるため、参考にしたかった。
- ・地域福祉活動をはじめるにあたって、情報を色々知りたかった。

2. 『実践報告』については、いかがでしたか？

(1) 「豊島区民生児童委員協議会における“みみずくサロン”活動について」

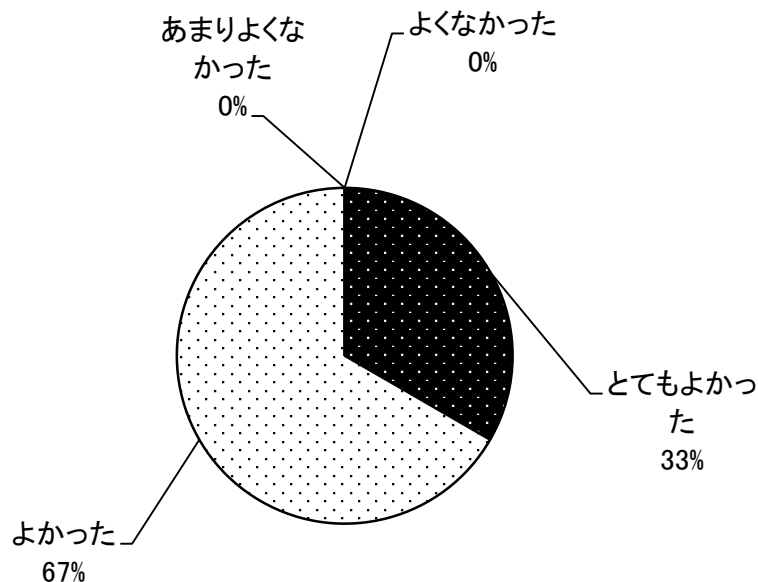


- ・自発的に高齢者が外に出るようにすることを目的にしている。参加者が先生役のようにしているところが大変興味深かった。
- ・パワーポイントとお話を聞かせていただき、とても理論的に整理させていて勉強になった。
- ・豊島区の様子がよく分かりました。
- ・班に分けるアイデアがよかったですね。1000円を出し合っていると伺いましたが、「エ～」と思われた方もいらっしゃるかと思われましたが、あまりにも「受ける」ことばかりの現在、1000円の力が光ります。素晴らしい！！
- ・民生児童委員主体の活動を聞かせていただき、その努力に敬意を表します。
- ・民生児童委員がまとまっているのが、よくわかりました。8：2の法則があると言われる。2割の反対は、正常な範囲だと思います。
- ・民児協が中心となって、まとめているのが長続きしている理由と思った。
- ・民生児童委員の仕事は、色々大変ではあるが、個々で、やることは特に難しいので、地域の中で、このようなことを皆でできるのは、とてもうらやましい。
- ・寺田会長さんの実行力は素晴らしい。会長の力の大きさを感じた。
- ・民生児童委員のアウトリーチなど、地域を支える仕組みは勉強になった。
- ・民生児童委員さんが、班を作ってアウトリーチしていきたいという活動が、お忙しい中、大変だと思いますが、素晴らしいと思いました。
- ・他区の活動が、よく判りました。豊島区と葛飾区の地域性はあるかと思いました。葛飾区内でも19地区の違いがあるかと思いました。
- ・地区で班を作って、負担が多くなるのか不安を感じました。実際に活動されている場面を見ると、その不安はなくなると思いますが、このアイデアは、民生児童委員活動を地域の住民に見えるものになるので、素晴らしい。考えても、始まらないので、一步、前出る、実行することに、環境を変えるヒントがあるのだと、改めて考えさせられました。
- ・皆が心を寄せていくことの大切さを学びました。
- ・ハードルが高いですが、でも、目標がそこにあると思う。
- ・地域の方々の協力が素晴らしい。

つづき

- ・ 民生児童委員活動として行われているということで、全員の連携の良さに感心しました。
- ・ 他区の意見を聞いて参考になった。民生児童委員が主体では（費用）大変だと思った。
- ・ 地域福祉活動をはじめるとあたっての準備の仕方、地域とのつながり方が、いづらか理解できた。班活動は、とてもよかった。
- ・ はじめることは、大変だと思いますが、大切なことだと思いました。お互いに助け合えればよいと思いました。
- ・ 民生児童委員の方々のアウトリーチについて学びました。活動内容や区分などを知ることができて、今後の私の活動に参考にさせていただきます。
- ・ 民児協において、班活動を義務づけ、サロン活動を展開することでアウトリーチしていることは参考になりました。
- ・ 班活動は、負担が大きいと思います。
- ・ 民生児童委員の班活動が大切なことが強調されていて、奥戸地区との相違するところと感じた。サロン活動の内容は変わらないと思った。
- ・ 世代間交流ができる場を会場にしている点、退任者にも残っていただく形式をとっている点は、とてもよいと思った。
- ・ 私たちの地区は、まだ、小地域福祉活動に取り組んでいなので、サロン活動のお話はとても参考になりました。

(2) 「長崎第一地区における“みみずくサロン”活動について」

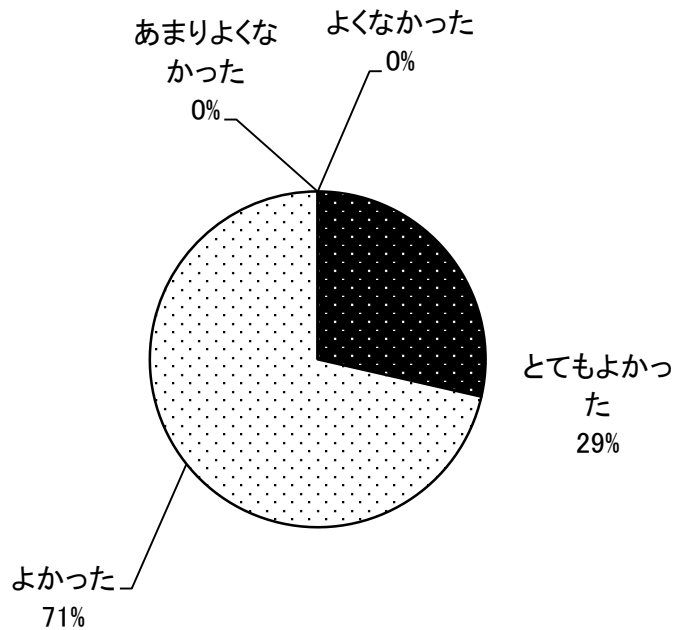


- ・ 専門技術や特技を活かして、サロン活動で講師という指導する役割を任せて、高齢者の方も自己表現できる場あるのは大切なことだと思った。
- ・ 月1回なら、できるかと思った。
- ・ 色々な行事を計画し、実施する役員さんに敬意を表します。

つづき

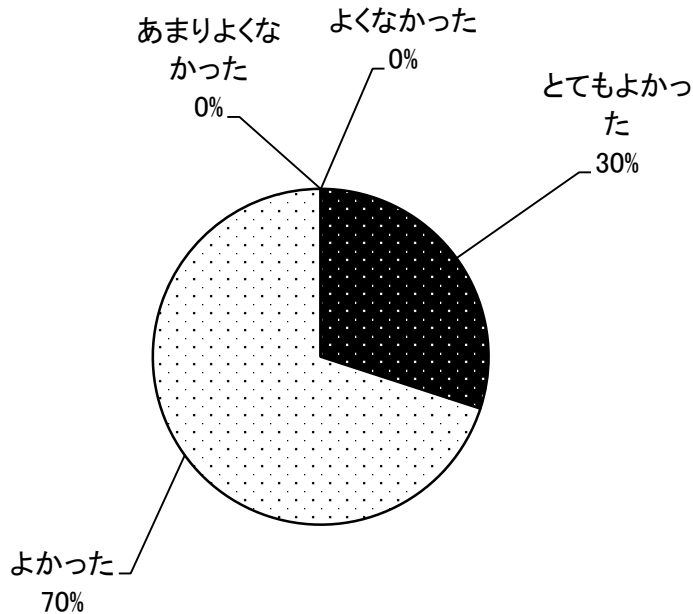
- ・それぞれの特技を発揮できる場があり、見せる場があることは大切。「昔取ったきねづか」、やはり何才になっても、披露、協力できる（役に立つ）ことが生きがいなんですね！
- ・山本さんの人脈を、有効に活用しているのが理解できた。
- ・多くの協力者を得て、上手に運営されていると思った。
- ・特養の社会化、今後の地域づくりの参考になった。
- ・色々な方と“つながって”、講師をしていただいたり、参加者に役割を担ってもらうなど、“つながり”が素敵だと思います。
- ・場所、お金、人が揃っていて、ラッキーな地区だなあと思いました。男性の参加が多いのが素晴らしい。
- ・つながり方の大切なこと、運営の仕方がとても良いと思った。
- ・民生児童委員のOBへの声かけは、良いやり方だと思います。
- ・気軽に参加できるのが良い。外に出て、人と接することが人には必要だと感じた。
- ・毎月、楽しめる課題を実践されて素晴らしいと思いました。
- ・毎月、工夫をされている手作りサロン活動が伝わってくる。
- ・毎回、スタッフ、CSW等で“ふりかえり”をしていることは、素晴らしい。どうしても、やりっぱなしになってしまうところを、とても大事にされていることが伝わりました。
- ・講師やスタッフ集めの参考になりました。
- ・難しく考えずに、楽しくできるように頑張ります。いや、頑張っちゃいけないですね。楽しくできたらいいあのノリでやってみます。
- ・参加（利用）者に役割を与えて、その方自身のやりがいを引出している点は、とても良いと思った。
- ・サロンの参加者が、積極的に催しの先生になっているのが良かった。
- ・たくさんの活動内容に感心しました。私の方は、指導者を探すのが大変です。
- ・特養の場所を貸してもらえていいなと思った。協力者がたくさんいて、うらやましい。
- ・色々な講師の方の紹介があってすごいですね。お礼や挨拶が大変だなあと感じました。すごいファイトがあり頭が下がります。
- ・地域の中から指導をできる方を探し出すのが大変そうです。大変、活動的なサロンで見学したくなりました。参加費が無料というところが素晴らしい。

(3) 「奥戸地区における地域サロン活動“笑顔であいましょう”の活動について」



- ・個人、個人が楽しんで、友だちを紹介したりで、どんどん輪が広がっていき感心しました。
- ・週1回の開催が大変だと思いますが、お世話する人たちの心意気を感じました。
- ・皆さんで作りあげていくことの楽しさと決められたスケジュールの中で、動きが目に見えるようです。多くの方の知恵袋があり、メニュー豊富な活動が素晴らしい。
- ・毎週されているようですが、中々難しい。
- ・会員さんが増えていくということは、とてもうらやましく思いました。内容が、楽しいからだと思います。マンネリ化が無いというのは、素晴らしいことだと思います。
- ・色々工夫されて、参加者に喜んでもらえるまでの最初の時は大変だったと思いますが、「継続は力なり」の通りですね。これから参考して、まだ、サロンはやっていませんが、頑張りたいと思います。
- ・会員からの声に応え、行動に移す、地域力に学びました。
- ・地域に根ざして、色々な人と協力して、楽しく続けていて素晴らしいです。
- ・“笑顔であいましょう”というサロン名は、素敵ですね。サロンの目的が分かりますし、自然と顔がほころびます。
- ・参加者が喜んでる姿が印象的でした。毎日が素晴らしく充実していますね。
- ・参加者を取り込むことを勉強させていただきました。
- ・人を集めるのが、とても上手だと思います。
- ・協力してくださる方が、たくさんいるは素晴らしいと思いました。参加者の中から意見がたくさん出たり、やりたいことが出たりするのは素晴らしいと思いました。
- ・サロンの立ち上げから、運営まで知ることができました。
- ・毎週、実施することの大変さ、参加者が楽しみにしている姿、月2回から週1回に増えたが、運営されている方の工夫や地域の方の協力で成り立っていることが理解できた。
- ・近くにある施設が、地域で使われていないという発想からスタートしたことが素晴らしい。
- ・毎週、活動していることに感心します。会員制で、限定しているからできるのかなあ。
- ・学童保育の子どもたちとのかかわりは、ユニークな取り組みだと思いました。

(4) 「奥戸地区における地域サロン活動“ゆずの会”の活動について」



- ・年間300円の会費で、実施されているのに感心しました。
- ・週1回は大変かと思いますが、マンネリ化しているようで、その決まっている毎回の体操などを、当たり前としてとらえて参加してくださることも、良いのではと思いました。マンネリ化＝継続は力なりと、楽しんでできる活動と感じました。
- ・毎週、開催というところがすごいと思いました。民生児童委員の活動は大変ですね。
- ・町会と合同で、できるといいですね。
- ・内容がとてもよかったし、参加者に当番でそうじを担ってもらうところは、工夫されているなあと思いました。お互いできることは、やってもらう、大事ですね。
- ・多くの方が参加されていて、続けているのは素晴らしいと思います。区の補助金を活用することは良いと思います。
- ・予定、計画を立てて実施する大切さが分かりました。
- ・包括支援センター職員の協力がうらやましい。
- ・専門職の方が、月1回定期的に来てくださっていることは、とても良いことだと思います。
- ・週1回は、大変だと思いました。自主活動と最初は考え、皆に声をかけてサークル活動として、はじめるのはいいアイデアだと思いました。はじめやすいと。
- ・少人数、短時間でもサロン活動が実施でき、楽しんでもらえることを知れた。どうしても、あれも、これもと色々なことを考えてしまうので勉強になりました。
- ・決まった方しか参加できないのは少し残念ですが、全員で楽しい時間が過ごせるのは良いと思いました。
- ・参加者にも役割を与えて、運営者と参加者が対等な関係性をもっているように見えました。対等性は、これからの地域福祉活動では大切ですね。高齢者の中には、十分できる力がある方がいっぱいいますからね。
- ・参加する人をお客様扱いしないで、そうじ当番をってもらうことは、勉強になりました。
- ・高齢者の方も、活動、活躍できる場を求めていることがわかりました。
- ・無理のないサロン活動は、とてもお話を聴いていて良かったです。きっと、運営されている方も楽しんでいることがよく伝わりました。

3. 今回の情報交換会の内容で共感し、影響を受けたと感じること、自分が学んだと思う3つのことをお書きください。

- ・企画、実行に民生児童委員が中心に役割を果たしていること。
- ・民生児童委員さんの熱意が大切なこと。
- ・場所を見つけることの重要性。
- ・民生児童委員さんのアウトリーチの方法。
- ・活動の場の大切さ。
- ・高齢者の方々の自主性について。
- ・サロン活動の立ち上げから運営まで。
- ・運営していることは、大変だと思いますが、運営されている方からは楽しいという言葉が印象的だった。
- ・人集めは、ポスターやチラシなどではなく、口コミで。
- ・男性の参加者が集まる環境づくり。
- ・サロン活動は、高齢者（参加者）と一緒に作り上げることが望ましい。
- ・お金をかけなくても、地域の資源、人材、制度を活用してサロン活動ができること。
- ・取りあえず、はじめることが大切。
- ・運営者も、一緒に楽しむ姿勢が無いと長続きしないし、義務化したり、つまらない、笑顔で会えない。楽しみことが大切。
- ・小地域での具体的な取り組み事例としてのサロン活動を学んだ。
- ・地域の特性があって、今回のサロン活動事例が自分の地区に当てはまるとは思わないが、工夫の仕方を学んだ。
- ・目的を持った組織づくり。
- ・地域福祉活動を立ち上げるに当たっての準備のやり方。
- ・地域とのつながり、協力の大切さ。
- ・高齢者の見守り及び、民生委員の役割。
- ・お金をかけない工夫の仕方。
- ・自分たちの地区は、社協さんより金銭面でバックアップを受けて、大変恵まれている。
- ・自分たちの活動が、今、どこの段階なのか、ゴールは、どの段階なのか、石川さんの説明で分かった。
- ・発表される方々の大変なエネルギーを感じた。
- ・サロン活動の運営方法、参加者、協力者、指導者集め。
- ・まず、一歩踏み出してみよう。
- ・口コミが大事。
- ・専門家を取り込む。
- ・運営者と参加者が一緒に作り上げるのがサロン活動。
- ・人、場所、お金が大切。
- ・人集めのノウハウを学べた。
- ・参加者に講師をお願いする。
- ・つながりの場づくり（地域の居場所、仲間づくり活動）。
- ・活動する上の会費（活動のポイント）。

つづき

- ・人と人とのつながり。
- ・運営者も参加者と一緒に楽しむとともに、役割を参加者に担ってもらう。
- ・身近で気軽に来られる場所。
- ・外に出での実行、協力することの大切さ。
- ・包括支援センターの協力。
- ・サロン活動は、人と人がかかわるので、運営者も参加者も介護予防になる活動では。
- ・家からあまり外に出ない人を、サロンに出られるように考えていきたい。
- ・町会なども、もっと協力してくれるように働きかけることを考えたい。
- ・豊島区の民生児童委員さん、皆でやれることは素晴らしい。
- ・体操などの運動だけではなく、小物づくりも活動内容に取り入れたい。
- ・活動が地域に根つき、多くの参加者に喜ばれていることに、民生児童委員としてとても共感できます。
- ・4月から立ち上げを予定しています。不安もありますが、ぜひ、成功させたい。
- ・自分なりにできることをやれば良いので、無理をする必要はないと感じます。
- ・場所、人、お金の重要性を再認識した。
- ・人と人とのつながりが、サロンを支えていること。
- ・情報の共有と実行。
- ・高校生4名からのコメントで、改めて気付かされた。
- ・高齢者に行ってみたい！と思わせる魅力あるサロンづくり。
- ・講師は、身近な人から頼む。
- ・これから始めるにあたり、参考になりました。
- ・町連が主で実施しなくてもいいのでは、地区民児協が主で実施できるのではないか。
- ・老人会を巻き込めば、区の助成金が利用できるのではないか。
- ・実践報告をされた方々が、皆さん前向きでアイデアが素晴らしい。
- ・色々なアイデアを見られることができて良かった。
- ・食事会をする時の注意点。
- ・高齢者の悩み。
- ・区の助成金。
- ・人材の問題。
- ・運営の仕方や内容にそれぞれ特徴がある。
- ・助成金制度にもメリット、デメリットがあり、どう考えるか。どこを優先して継続していくかが大切。
- ・町会と民生児童委員をつなぐということ。
- ・地域での福祉活動の必要性
- ・区の助成金の活用
- ・無理をしない、当たり前のように足を運んでくれる活動の大切さ。

4. 本日、または今後の地域住民福祉活動情報交換会について、ご意見や要望等があればお書きください？

- ・高校生、大学生の皆さんの参加は良かったです。
- ・皆さん、民生児童委員としての活動と地域のサロン活動を負担として感じることなく、継続していることは驚かきと共にうれしく思いました。
- ・今後とも、区内外の実践事例を紹介してほしい。
- ・他の区（豊島区）の活動内容をお聞きできて参考になりました。
- ・この情報交換会は、これでとても貴重な他地区の方との意見交換ができる場ですが、もう少し、理論というか手法を学べるといいといいなあと思いました。
- ・民生児童委員として、とてもためになった。
- ・今回は、みみずくサロンのことのみでしたが、子育てサロン等のことも聞くことができればと思います。
- ・小地域福祉活動より、自主的福祉活動へ移行にもっていきたい。原則的に会員制の集いは不可。
- ・ありがとうございました。大変参考になりました。
- ・皆さん前向きで、熱心で、楽しそうで、参加して嬉しく元気をもらいました。
- ・最後のディスカッションは、とても良かった。報告を聞きっぱなしではなく、グループを作って、グループの中で感想や意見を交換できることは、とても有意義で、私も勉強になりました。石川さんのアイデアと行動力に敬意を表します。お疲れ様でした。サロン活動は、皆さんが歩いて来られる範囲でないと、イベントみたいになると大掛かりとなり準備が大変になるだけ、まさに、小さな地域でお茶飲み活動するから効果があるのでは。
- ・他地域の活動が、とても参考になりました。今後の活動に活かします。
- ・広範囲な地域なので、高齢者の方が集まれる場所が遠いと難しいのではないかと考えると、地域各町会に別れないと、できないので迷っています。
- ・4名の学生の将来がとても楽しみです。石川さんのような誠実さと行動力を身に付けてくれることを期待して。今日は、とても勉強になりました。「高齢者社会」が楽しくなる活動をしたいと思いました。

提案です。どこかで実際にやっている「ある日のスケジュール」を皆で体験してみませんか？

◎ 13：30～14：00 サロン活動の内容を体験

◎ 14：00～ いつもの会

※サロンでやる様々活動を、一つのモデル事例として皆で体験する。参加者の立場になってみる。そこから見えるもの、感じるもの、考えること、アイデアが生まれるかも

- ・社協が、小地域福祉活動を広げたい、進めたいということはわかりますが、地域への思いというのを共有するのは難しいと思った。社協としての思いを、もっと聞けると良いです。
- ・もっと、活動上の苦労話を聞きたかった。多くの人を参加させる方法を聞きたい。
- ・とても参考になり、考えさせられ改めて頭が下がる思いです。サロンを開催することは努力が必要ですが、自然体で無理ないことが継続なのでしょう。若者の意見、素直さ、とても良かったです。

参加者からの質問及び回答

Q 1. “みみずくサロン”の活動費について、民生委員が会費を出して運営するのには疑問を感じます。社協や行政からの助成金で賄うことはできないのでしょうか？

A ⇒ 「みみずくサロン」は、民生委員児童委員協議会主催の自主活動です。協議会の会計から支出するのは当然だと考えます。

ただ、単独の活動よりは、他団体との協力や協賛をお願いすること。または、共催として行う等は、今後、視野に入れて活動しなければならないと考えます。

民生児童委員の仕事もあって、人が変われば、あり方も変わることを考えれば、社協との共催が、いいかと考えています。

27年度から、社協が行っている「地域福祉活動費助成金」を活用する予定。

＝（寺田）＝

Q 2. “みみずくサロン”が民生委員の活動の一つとなっていて、普段から多忙にも関わらず、打合せ、ふりかえりまでして、民生委員さんが負担感を感じたりしないのか？

また、皆さんがそこまでできるのかという点が疑問でした。

A ⇒ 「みみずくサロン」は、私たちの自主的「班活動」として位置づけています。

本来、相談支援を行う場を自宅より、拡大してアウトリーチ（外に出る）して「区民ひろば」等の公共施設を活用して活動することです。

負担というよりも、民生児童委員としての本来の職務を仲間と共有したり、共感したり、共学したりと、私たち民生児童委員の活動内容を理解する活動になっています。その結果、悩むことなく、相談できる仲間として活動できる方向性ができています。

もしかすると、多忙の意味は、行政や関係機関からの協力で忙しいのではないですか？本来の私たちの活動が見失われていて、今一度、このことを考えてみると、「班活動」の意義が理解できるのではないのでしょうか？

一見、負担のようですが、アウトリーチしてみると、私たちの活動の様子が見えてくると思います。

もともとの私たち本来の相談支援の職務を、アウトリーチした活動であると考えてみると、また、これは、私たちが積極的に活動している結果としてのサロン活動とみることができのではないかと思います。

＝（寺田）＝

Q 3. 豊島区での“みみずくサロン”は、以前から知っていました。その他にも豊島区の民児協では、子育てサロン活動もされているかと思いますが、簡単に仕組みや活動内容など教えてください。

A ⇒ 「みみずくサロン」、「子育てサロン」も、私たち民生児童委員の自主活動です。「みみずくサロン」は、長崎第一地区民児協が最初に行った自主（班活動）であり、仕組みは、単位民児協を5つの班に分けて、班活動を月1回以上行うよう義務づけた活動です。

「子育てサロン」は、部会活動の中の「子育て部会」を特化して、この部会を中心に全地域で月1回以上行っている活動です。ですから、「子育て支援部会」は、必ず単位民児協の副会長が入り、人数は他の部会とは異なっています。

このサロンの目的は、妊婦、0～3歳までを対象にして、この時期、子育てによって孤立しないように、参加者同士お互いの友だちづくりの場を提供する活動です。

内容については、ぜひとも、6月4日（木）「子育てサロン10周年フェスタ」で発表会があります。豊島区福祉総務課民生委員担当係（03-3981-1722）まで、お問い合わせしてみてください。

皆様のご出席をお待ちしております。

＝（寺田）＝

Q 4. 地区民児協では、班活動をどのように組織の中で位置づけて、いらっしゃるのか教えてください。

A ⇒ 私たち豊島区民生児童委員協議会では、民生児童委員活動、班活動、民児協活動と3つに整理し、位置づけて活動をしています。

- ① 民生児童委員活動は、委員個人として、本来の民生児童委員活動。
- ② 班活動は、地区民児協として、委員同士が協力して、仲間（同志）としての活動。
- ③ 民児協活動は、豊島区全体の活動。

＝（寺田）＝

Q 5. 民生委員活動の一環としての班活動で、サロン活動をされていて、自治町会さんとの反応や協力などは、いかがでしょうか？

A ⇒ 「みみずくサロン」班活動では、はじめから自治町会長、高齢者クラブ、育成委員、婦人会、商店会、社協、CSW、区議会議員などを巻き込んで始めています。当然、自治町会長や町会員（役員を含め）も、協力だけではなく参加しています。

「子育てサロン」は、全地区内の自治町会（129町会）に、このサロンの案内を回覧板や掲示板に載せていただいています。地域との協力関係はできています。

最近では、サロン活動を行うことによって、自治町会長から民生児童委員活動は、何をやっているのか、分からないという人がいなくなりました。

＝（寺田）＝

Q 6. “みみずくサロン”の活動について、山本さんが民生委員として運営している中で、民生委員としてのメリットは、どんなことですか？

A ⇒ 民生児童委員の活動は個人委嘱による個人の活動です。従って守秘義務の下、委員同士の交流も希薄なものとなっております。しかし、日本の家族形態は戦後大きく変動し、「国家」「家」の意識が薄れ、個人の尊厳が最も重要視されるようになりました。

高齢になっても家族を頼らず、高齢者（夫婦）だけ、あるいは高齢者単身の家庭が急速に多くなってきました。民生児童委員の実態調査でも明らかなように、年々調査件数は多くなっています。

私たち民生児童委員が孤立する高齢者をサロンにいざない、独りでも地域で安心して暮らせるように見守ることができます。また、班活動でサロンを運営するため、委員相互の情報交換もできます。

さらに、高齢者相談センター、社会福祉協議会、区民ひろばなど公共機関とのネットワークもつながり、民生児童委員活動の大切な橋渡しの役割がスムーズに行うことができるようになりました。

＝（山本）＝

Q 7. “みみずくサロン”が民生委員の活動の一つとなっていると伺いましたが、実際サロン活動をする時の役割分担は、どのようにして運営をしていますか？
どうしても、リーダーが、ほとんど役を担ってしまう気がしますが・・・。

A ⇒ まず、報告会でも申し上げましたが、サロンを立ち上げる3本柱は「人」「場所」「お金」です。

ここでは民生児童委員のサロンと言うことですので、「人」はまずクリアです。私たち民生児童委員のサロンは、班活動として立ち上げましたから、南長崎5丁目・6丁目の6名で運営しています。

どんな活動もリーダー（核となる人）が必要です。しかし、6名がそれぞれに役割を分担することが、大切です。会計、買い物、当日の受付、記録（当日も含め事業報告書）司会、カメラなど、各自責任を持って分担します。年度始め（4月）には1年間の企画を立て、プログラムを作成します。この時、必ず全員で決めます。プログラムは無理のないところで決め、なるべく決めた通り運営することです。

人は、それぞれ色々な個性がありますので、その人に合ったポジションにつくことが大切です。他の民生児童委員の班では、1年ごとに交代するところもありますが、司会、会計など不得手な人もいるので、難しいようです。運営する側も、楽しんでやらなければ、長続きはしませんし、参加者も楽しくはなれません。

みんなが、楽しみにするようなサロンになればいいですね。

＝（山本）＝

Q 8. 私どもの地域では、2つぐらい高齢者の会があって活動をしているようです。これ以上になると、参加する人がいなくなると思いますが、いかがでしょうか？

A ⇒ いえいえ、そのようなことはないと思います。実践報告でも触れたアンケートにもありましたように、何カ所にも参加している方がいらっしゃいます。午前中はあっち！ 午後はこっち！と、忙しい毎日を送っていらっしゃいます。

楽しい会であれば、口コミで参加していただけたと思います。マンネリ化しないことが大切かと思います。

= (田島) =

A ⇒ 奥戸地区や東新小岩地区の方は、憩い交流館で、他の体操クラブや踊りの会、吹き矢など、曜日が違うので時間帯をうまく活用されて、参加されている方がたくさんいます。

みなさん、「ゆずの会」は、会費（参加費）が安いので参加しているようです。

「ゆず の会」は、毎週、違う内容がよいようです。

= (滝田) =

Q 9. 個人的な活動でなく、地区の民生児童委員みんなで取り組んだ方が良いと思う。それぞれの民生児童委員の活動の勉強になると思います。なぜ、個人で活動を続けていらっしゃるのでしょうか？

A ⇒ 発表の時は、言葉不足、説明不足のために誤解されてしまったようです。

「クリスマス会」のようなイベント等の行事がある時は、地区民児協の時に参加、協力をお願いをしているので、個人的な活動とは思っていません。

地域包括支援センター、保健師さん、民児協みんなの協力があったの活動になっています。

= (田島) =

A ⇒ 発表の時にも話をしましたが、自分が民生児童委員でなくても、協力してくれる方がいたので、はじめたと思います。

私の場合は、サロンという方法で地域の高齢者の方とのふれあい活動を行っているだけで、他の民生委員の方は、違うやり方で、違う活動をされていると思います。

奥戸地区でも、小地域福祉活動という地域住民による福祉活動を、自治町会と民生委員が中心になって取り組むとの話を伺っています。

これから、自治町会として、民児協として、地域について勉強しながらはじめることになると思います。

= (滝田) =

Q10. 私からみると、中々できない活動を毎月継続されている皆さんに敬意を表します。そして、とても勉強になりました。一つ教えてください。
サロン活動の対象は、元気な高齢者の皆さんのようですが、外に出られない高齢者をいかに出られるようにするのかという課題が、一方にはあると思いますが、どのようにお考えですか？
また、対応されている事例がありましたら教えてください。

A ⇒ 閉じこもっている高齢者を、いかに出られるようにする課題は、常に私たちにはあると認識していますが、それは、私たち民生児童委員だけの問題ではないのです。

ただ、このサロン活動は、私たちが自宅にいるより、それより一歩も、二歩も外に出て地域住民に近い場所で行っている意味では、外に出られない人たちへの宣伝効果があったと思います。その中で、一人でも足を延ばしてくれればというスタンスです。

サロンに来る人は、元気な人と考えますが、杖の人、車（タクシー）で来る人、様々です。外に出られない人が、元気がないという考えは間違いです。元気な人でも、孤立している人はたくさんいます。

サロンに来てくれること、来て楽しんでくれること、また、その人が多くの情報をもたらしてくれること、そして、来なくなった人への気配り等があれば、それ以上にサロン活動としては考えなくても、いいのではないかと思います。

＝（寺田）＝

A ⇒ サロンに参加されるみなさんは、確かに元気な高齢者が多いです。3年間、サロンを開催している間に、亡くなった方も何人かいます。実態調査で孤独な毎日をご過ごしていらした方にサロンを紹介し、地域とつながることができました。また、元気になられたので受付の一役を担って頂くことにしました。また、男性の高齢者はサロンに参加することを余り好みません。男性は群れないからです。

そこで、男性にも一役お願いして、講師になっていただきます。落語、手品、植木の話、昔を（地域に歴史）語る、オーボエ演奏、コーラスなど一緒に楽しんで頂くプログラムを作成します。

家の中に閉じこもっていらっしゃる高齢者は、人と話すことが苦手な方が多くいます。そこで、人と話さなくてもいいプログラム「映画」などを、時々いれます。

民生児童委員として得られる情報を上手に使って外に誘い出すことができます。外に出られない高齢者と信頼関係を作り、サロンへといざなうことが出来ました。

＝（山本）＝

A ⇒ 外に出られない方は、人との接点を拒みます。拒む方が、みんなと一緒に行動することは無理……。では、何をしてあげられるのか……。声かけを忘れずに、それも嫌がる方も……。努力するのみ。

今、元気な方が引きこもらない、孤独にならないため、人と人のつながりの楽しさ、大切さを伝える手段として、サロン活動が特に都市部で広がっていると聞きます。

＝（田島）＝

A ⇒ 家にいる方については、1人でも多くの方の参加を考えています。一人暮らし高齢者の実態調査で知り合った人には、ご近所の方にどうしているかを聞いたり、ゆずの会のことを話してもらったりしています。

体を動かすことが嫌な人は、歌の時だけ来る人。また、その逆もあります。自分でやりたいなあ、知りたいなあ、話をしたいなあなど、そんな気持ちになった人に参加してもらい、嫌だなあと思えば、無理に来る必要はないのです。来たい時、来られる時に顔を出してくれればいいと思っています。

ただし、内容がマンネリにならないように、参加者からのリクエストを聞いたり、スタッフの間でも意見や情報を交換して、来る人が楽しいもの、運営する私も楽しいものになるように努力はしています。

＝（滝田）＝